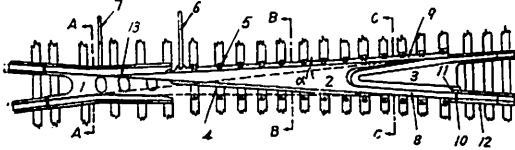


高速用可動クロッシング

特公明 36-11352

発明者 友 永 和 夫

軌道における分岐器のクロッシングに関するもので、クロッシングの可動鼻端レール(2)を全体としてY字形とし、その端部二又の一方の長手基準線側にはレールと外から支えるレールブレースとの間において転換時に固定部分(12)から曲りたわみうるようにした弾性部分(8)を設け、また他方の短い分岐線側には摺動部分(9)を設け、トングレール状に斜削りした分岐線側レールが受レール(3)とレールブレース(5)との間で基準線側の弾性部分(8)の曲げたわみに順応して摺動しうるようにしたものである。本発明によれば転換がきわめて容易であり、従来のような関節式の弱い継目に依存せず、弾性部分と摺動部分によって転換するようにしたから構造は強固であって、クロッシングの軌間線欠線とガードレールとを設けず可動鼻端レールの転換作用に応じてレールブレースを配置したから車輪の横圧力に対しても十分耐えることができ、車輪は衝撃を受けることなく安全に高速走行できる。

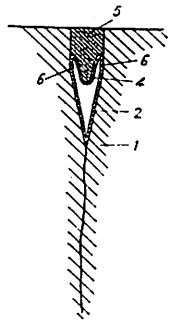
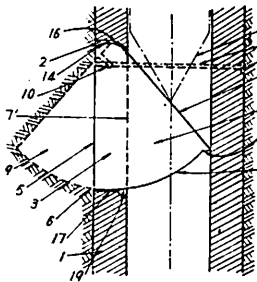


こぶ出し遠心鉄筋コンクリート杭

特公明 36-11708

発明者 小 林 秀 彌

庭面が円弧状(15)になった三角形のこぶ体(3)を杭(1)の外壁にうがった窓(2)に縦にはめこみ、前記こぶ体(3)の上端



(特許庁審査二部 荒木 遠 雄)

部は杭の壁体の内外に倒れぬようにとりつけ、こぶ体の外面(5)を杭の外周面とを一致させつつ杭壁体の窓との間に外方からクサビ(6)を打込み底面その他端を杭の中空部に突出した状態で杭を土中に打込んだ後、杭の中空部へ突棒(8)を入れてこぶ体の杭体中空部への突出(4)をついてこぶ体の上部を中心として下方を外部の土中へ回動させつつ押し出すようにしたものである。杭を土中へ打込む際、窓はこぶ体で閉ざされているので土砂が杭中へ入ることなく作業でき簡単な操作で杭の支持力を増大できる利点がある。

潜函工法における土壌と潜函表面との 摩擦抵抗を減少させる方法

特公明 36-12882

発明者 中出定夫, 外1名

潜函表面に固形パラフィンまたは固形パラフィンを主剤とする減摩剤(実施の一例では固形パラフィン 100, 粉末ロジン 30, アルミニウム ステアレート 0.1~0.5 重量比で混合したもの)を加熱溶融した溶液を塗布して潜函体表面の微小凹凸の目潰しを行なうとともに防水性膜を形成するようにしたものであり、現場において低温加熱で溶融し簡単に塗布できるほか、防水膜は発水性を有するから粘土の粘着力による強大な摩擦抵抗を軽減しコンクリートの吸水ならびにコンクリートのカルシウムイオンによる粘土の強化にもとづく抵抗の増加を阻止できる。この方法によれば普通の方法に比し摩擦抵抗は約 1/3 に減少するという。

コンクリートに継目を形成する方法

特公明 36-12884

発明者 ミッドルスタット, W.F.

コンクリート舗装道路などに収縮目地を形成する方法に関するもので、打設コンクリートが未硬化のプラスチックの状態のとき管状体(2)の上面がコンクリート表面とほぼ一致するよう管状体をコンクリート中にそう入し、コンクリートが硬化した後管状体の上面をロールなどでふいご状(4)に変形し、その上部空間に封鎖材(5)を充填するようにしたものである。施工がきわめて簡単であるうえ管状体をふいご状に変形したことによってコンクリートの膨脹収縮などによって封鎖材が路表面に突出あるいは陥没することがない。

日本工学会手帖予約申込御案内

例年のごとく本年も昭和 37 年(1962 年)用日本工学会手帖を御好評により下記の通り発行いたしますから、何卒予約御申込み下さい(印刷費、その他の値上りのためやむを得ず定価を改訂いたしました)。

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 1. 寸 法: 15 cm×9.5 cm | 4. 予約申込場所: 土木学会または日本工学会 |
| 2. 定 価: 200 円(送料共 220 円) | 5. 予約金支払期日: 昭和 36 年 11 月 20 日まで |
| 3. 予約申込期日: 昭和 36 年 10 月末日まで | 6. 手帖発送期日: 昭和 36 年 12 月 1 日より |

日本工学会の住所などは次のとおりです。

社団法人日本工学会: 東京都千代田区神田佐久間町 1 の 11・社団法人造輪協会内・電話(251) 4358 番・振替口座東京 5055 番